

岡崎の都市拠点

# 男川学区

OTOGAWA



## 男川の自慢はココ

男川小からのメッセージ

○私は男川学区が大好き。おじいさんもおばあさんも子ども、みんなが仲良し。これからも、だれとでも顔を合わせたら「おはよう」、「こんにちは」とあいさつできる、そんな学区でいてほしい。  
○男川学区はいろいろな場所に草花があって、川もあって、田んぼもある。自然がいっぱい、生き物いっぱい、広場もあって、とても楽しいです。  
○男川学区はお店が多いです。品物も多くて買いたいものが買えます。

○男川っ子は、発表する時に「～ですよ」と、みんなに話しかけるような話し方をしています。聞いている人も、発表する人をしっかり見ます。それがいいところです。  
○男川小学校は、144年もの歴史があります。私が大人になっても、この伝統ある小学校が残ってほしいです。

### 男川の将来へ

水を大切にって、ゴミも拾って、きれいな川を守ってほしい。人と自然がいっしょに生き生きしている学区になってほしい。

あいさついっぱい、笑顔いっぱいの学区にしたい。笑っていると元気が出て楽しい。

自然がたくさんあってほしい。きれいな水、きれいな空気、木がいっぱいで、鳥も虫もたくさんいる、そんな学区でいてほしい。



### 編集後記

「岡崎まちものがたり」の作成にあたり、総代会が中心となって委員会を立ち上げました。年表、地図、特集などを役割分担して作成し、その内容を全員で協議をする形で進めて参りました。男川小学校からのメッセージである“男川の自慢”を守っていけるよう、また、子どもたちの“男川の将来へ”の希望を叶えていけるように心を込めて作りました。

〔作成委員会〕 小野田和夫/山田賢一/柴田一郎/近藤芳治/中田晴久/菅原秀美/清水正夫/柴田幸夫/山田泰司/柴田富男/河澄市三郎/小嶋正美/柴田登/仲条紳一

〔参考資料〕 郷土誌 男川/岡崎教育史要VI/新編 岡崎市史 〔協力〕 男川小学校/NEXCO中日本  
〔表紙写真〕 岡崎市の“おへそ”と呼ばれた昔、そして今も変わらず“都市拠点”である男川地域を象徴する岡崎IC



史蹟神明 毎年秋祭りて賑わう神明宮。その傍らでひっそりと永遠の眠りについておられる古墳の主



2 男川小学校は創立144年。昔も今も変わらない子ども達の嬉々とした活動の様子が見える



3 文化講座などの文化サービスと、敷地内の支所で行政サービスも受けられる大平市民センター



4 男川の全ての会合、催事の会場としてフル稼働。学区民の憩いの場である男川学区市民ホーム



5 生徒も学生も一般の人も、車を気にせず安全にゆとり通行できるようになった丸岡新橋



5 丸岡新橋ができるまでは丸山町と岡町を結ぶ主要な橋だった丸岡橋。岡町の一字をとって命名された

# 男川のなりたち

## 縄文時代

弥生時代

五〜六世紀 ■ 古墳時代

六世紀後期 ■ 古墳時代

七世紀後期 ■ 白鳳・飛鳥時代

八世紀 ■ 奈良時代

一七四八年 ■ 江戸時代

一八六八年 ■ 明治1

一八七三年 ■ 明治6

一八七六年 ■ 明治9

一八八一年 ■ 明治14

一八八七年 ■ 明治20

一八八九年 ■ 明治22

一八九二年 ■ 明治25

一九〇六年 ■ 明治39

一九一一年 ■ 明治44

一九一八年 ■ 大正7

一九二八年 ■ 昭和3

一九三七年 ■ 昭和12

一九四一年 ■ 昭和16

一九四七年 ■ 昭和22

一九五六年 ■ 昭和31

一九六五年 ■ 昭和40

一九六八年 ■ 昭和43

一九七三年 ■ 昭和48

一九八〇年 ■ 昭和55

一九八六年 ■ 昭和61

一九九四年 ■ 平成6

一九九六年 ■ 平成8

一九九八年 ■ 平成10

二〇一三年 ■ 平成25

村上遺跡、天神前遺跡（大平町）に縄文文化の痕跡が認められる

細田遺跡（洞町）に弥生文化の痕跡が認められる

丸山町経ヶ峰周辺を中心とした広い範囲に数十基の古墳が築かれる

神明宮第一号古墳（横穴式石室／丸山町）が作られる：1

丸山廃寺（現美川中学校が建っているところ）ができる

三河八郡、額田八郷（男川は大野郷に入る）ができる

白羽根遺跡（洞町）に奈良時代の痕跡が認められる

大岡忠相、三河国宝飯・渥美・額田の三郡の内

4080石を加増され、西大平藩ができる

洞村は岡崎藩、西大平村は西大平藩、東大平村は西尾藩、丸平

新田・西丸山・東丸山・高隆寺・小美村は三河県となる

紫雲寺を仮教場として、男川小学校の前身ができる：2

額田郡第二十番小学男川学校となる

官営模範工場「愛知紡績所」が操業を開始する

額田郡尋常小学大平学校と改称。和合学校、岡保学校、男川学校、小美学校が一つになる

額田郡男川村として編成される

男川村立男川尋常高等小学校と改称される

男川尋常高等小学校と改称される

男川製糸合資会社ができる

大平郵便局が開業する

岡崎市に合併。洞町、大平町、丸山町、高隆寺町、小美町となる

大平一里塚が国の史跡に指定される

太平洋戦争終結後、男川小学校と改称される

国道1号の拡幅工事が行われる（現在の国道1号として整備される）

男川浄水場が通水を開始する

岡崎ICが完成し、東名高速道路が一部開通する

男川小学校開校100周年を祝って塔が建てられる

大平市民センターが開館する：3

岡崎中央総合公園・中央クリーンセンターが起工する

男川学区市民ホームが完成する：4

第49回国民体育大会「わかしゃち国体」の一部競技が岡崎中央総合公園にて開催される

小美地区で農業集落排水処理施設が完成する

岡崎市美術館が開館する

岡崎市民病院が高隆寺町に移転開院する

丸岡新橋が開通する：5

中学校の北側の地に建っていたようです。十分な発掘調査がなされていないのが少し残念です

明治43年に現在地に移転されました

明治13年頃に創業し、何度か倒産や経営危機に陥ったものの、明治38年に再建。この年に合資会社になりました

## 男川のむかし・いま

♪一、男川の歴史は遠く 弥生の文化受け継いで…、二、男川の水美しく、若鮎育ち 螢飛び…♪と、男川小学校校歌に歌われているように、昔から三河高原から流れ出た豊かな乙川の流れによる河岸段丘の上の人々は住み着いていました。古くは縄文時代の村上遺跡、天神前遺跡、古墳時代の経ヶ峰古墳群など、多くの遺跡が男川には点在しています。何百年にもわたって、温暖な南側の斜面の地で、乙川の恵を享受する人の営みがありました。北野廃寺の建立と同時期に、白鳳時代の建築様式の丸山廃寺が建立されていたことから見ても、この地は古代における岡崎の中心地の一つでありました。時代が進んで、東海道が整備され人の行き来が大幅に増えました。関ヶ原に向かう家康の兵馬や、大平一里塚で休んだかもしれない弥次さん、喜多さんも、江戸に向かう篤姫もここを通ったかもしれません。明治に入って官営の愛知紡績所ができ、明治13年頃には男川製糸合資会社が開業しました。大正の

初めには大平町、小美町、高隆寺町にガラ紡の工場がいくつもでき、紡績の町として栄えました。さらにガラ紡から反毛へと変化し、男川は繊維の町・岡崎の中心をなしていました。明治天皇が東京に行幸されるときに通られた東海道に代わって、国道1号が整備され、さらに、東名高速道路のインターチェンジができ、岡崎への玄関口として、また物流の中心として、この地区が今でも機能していることは間違いありません。

## COLUMN 男川のいのり

神社仏閣が多い男川。寺は戦国時代には兵が詰める砦の役目もあり、岡崎の東の守りを固める重要な地域でもありました。

### 学区内の神社仏閣

- ・日吉神社（高隆寺）
- ・八柱神社（洞）
- ・八幡宮（大平）
- ・春日社（からす神社）（丸山）
- ・神明宮（丸山）
- ・瓶井神社（小美）
- ・高隆寺（高隆寺、欽明天皇の時代創建）
- ・大徳寺（高隆寺、真宗大谷派）
- ・額洞寺（洞、真宗大谷派）
- ・専光寺（大平、真宗大谷派）
- ・縁盛寺（大平、真宗大谷派）
- ・観音寺（大平、浄土宗）
- ・紫雲寺（大平、真宗本願寺派）
- ・薬師寺（大平、浄土宗西山深草派）
- ・阿弥陀寺（丸山、真宗大谷派）
- ・長徳寺（丸山、日蓮宗）
- ・宗徳寺（丸山、臨済宗妙心寺派）
- ・廣圓寺（小美、天台宗）
- ・順正寺（小美、真宗大谷派）

### DATA



□人	10,343人
□男性	5,216人
□女性	5,127人
□世帯数	4,370世帯
□面積	10.35km <sup>2</sup>

[2016年7月1日現在]

# 歩いて楽しい!! 男川案内マップ

旧東海道を中心に名所・旧跡が数多く見られるほか、山側からは岡崎市街地や遠く名古屋方面の眺望も楽しめる男川学区。遠い昔にロマンを馳せながら散策を楽しみませんか？

## オススメ散策コース

**A 男川の見どころ満載！歴史散歩コース** 所要時間：約60分

Start バス停大平西町 ▶ ①大平一里塚 ▶ ②西大平藩陣屋跡 ▶ ③E大平川(乙川)/昔の天然プール ▶ ④H紫雲寺 ▶ ⑤F男川浄水場 ▶ ⑥G大平城跡 ▶ ⑦I大平八幡宮 ▶ Goal バス停大平西町

オススメ Point 旧東海道の史跡をはじめ、近世から現代までの男川の歴史を巡ります。

**B 市街地の景色も最高！岡崎中央総合公園一周コース** 所要時間：約40分

Start バス停中央総合公園口 ▶ 岡崎市美術館 ▶ Goal バス停中央総合公園口

オススメ Point 春の桜など季節の花を見ながら、スポーツ施設が点在する公園内を散策します。

**C 古墳群と小美の歴史を巡る作手街道コース** 所要時間：約70分

Start バス停大平西町 ▶ ①経ヶ峰古墳群 ▶ ②神明宮古墳 ▶ ③村上遺跡 ▶ ④D小美観音 ▶ ⑤C板倉勝重生誕地 ▶ Goal バス停小美観音前

オススメ Point 地域の歴史を物語る遺跡、徳川家に仕えた武将の生誕地が点在する街道を歩きます。

まち歩きで見つけた道しるべ



は 作手街道との分岐を示している

ろ 郵便局前で西大平藩陣屋跡を案内

い 大平一里塚前に東海道の道しるべ

古代のけもの道とされる。信州との交易にも使われ、荷車や旅人などが賑やかに行き来した

に 国道1号沿いにある周辺の案内看板

至豊田IC

至名古屋・東岡崎駅

至豊橋

至音羽蒲郡IC

散策コースの説明  
→ 進行方向  
← 往復



**I 大平八幡宮**  
1480年(文明12)、内大臣より神領を寄進され、1859年(安政6)に太平町八幡より遷座したとされる



**H 紫雲寺**  
浄土真宗本願寺派の寺院。男川小学校が開かれた最初の場所でもある



**G 大平城跡**  
大平の古城跡には西から多門(おおかど)氏・発知(はっち)氏・柴田氏・本多氏による4城が見られる



新男川浄水場は平成30年2月から供用を開始する予定です

**F 男川浄水場**  
市全体の約50%と最も多い配水量を誇る。毎年6月初旬の水道週間には一般公開もある



**E 大平川(乙川)/昔の天然プール**  
水泳指導も行われた天然プール。昭和40年に小学校にプールが建設されて以降、遊泳禁止に



**D 小美観音**  
本尊の十一観音は元明天皇の頃に行基が建立した



**C 板倉勝重生誕地(小美古城)**  
徳川家康の家臣、板倉勝重。19年間にわたって初代京都所司代を努め、非凡な行政手腕を発揮した



**A 高隆寺**  
欽明天皇の時代の創建。1603年(慶長6)には徳川家康から朱印状を賜った



**B 日吉神社**  
三河守護職となった足利義氏が再建。明治維新で神仏分離により高隆寺から分かれた

私たちのふるさと

# 男川

縄文からの歴史を誇る

活気あふれる暮らしの町

集落のはじまりは縄文時代であり、市内で最も古墳の多い地域のひとつとされている男川学区。その歴史を裏付けるかのように、国指定史跡の大平一里塚をはじめ、県指定史跡の神明宮第一号古墳、市指定史跡の村上古墳、村上遺跡、高隆寺跡などの文化財が数多く残されています。

また古くは江戸まで続いた東海道や、信州への連絡路としても使われた道根往還といった道があり、主要道が国道や高速道路に変わった今も人々が盛んに往来しています。こうした交流がこの地域の発展の源になったともいえます。

そして現在の生活も人と人との交わりによって、安全・安心が維持されています。防犯パトロール、福祉活動、防災訓練を中心に、住民が協力し合ってさまざまな活動を行い、地域の目が行き届いていることが住民に喜ばれています。これらの活動が暮らしを守るとともに、交流が地域を結束させています。

また住民の団結によって、地域を盛り上げる活動も盛んになっています。学区民総出の男川大運動会をはじめ、約50年ぶりに復活した男川音頭での交流、各町内でのお祭りも盛んであり、伝統を大切にしつつ新たなことにもチャレンジしていく活気にあふれた学区です。

## 活気



△男川大運動会 午前は小学校の運動会、午後は全学区民が一堂に会する9町内対抗の大運動会を開催。玉入れ、綱引き、リレーなどの種目のほか、クライマックスの大玉運びでは、下に落とさないようにするスリルで大いに盛り上がる。地域の親睦の輪を広げる場として学区に欠かせない行事である



▽男川音頭 男川の情景が詠みこまれ、昭和20年代頃から盆踊りの定番として親しまれてきた男川音頭。時代が進むとともに忘れられてしまっていた唄ながら、平成25年に学区総代会が住民の郷土愛と絆を深めるために復活させた。現在ではCD化も果たし、踊りの講習会などを開催して普及に努めている



△祭り 大平町辻中の親睦みこしや大平西町の長持ちをはじめ、学区各町の子供みこし、奉納花火など、学区内を盛り上げる祭り。毎年秋になると、威勢の良い掛け声とともに行列が練り歩く光景が見られる

## 歴史



△大平一里塚 東京・日本橋から80里に位置する一里塚。1928年(昭和3)の道路改修の時、北側の塚が壊されてしまったため、現在は南側の塚のみが残る。中央に植えられた榎(えのき)は塚を作る際に、徳川家康の「なにか、ええ(良い)木を植えよ」という言葉を、家臣が「榎を植えよ」と勘違いして植えたという説もある



◁西大平藩(大岡越前守)陣屋跡 大岡越前守忠相が藩主であったのは3年のみだったが、大岡家が7代にわたって治めた。大岡家の菩提寺がある茅ヶ崎市は岡崎市のゆかりのまちであり、その縁は今も続いている



◁村上遺跡 乙川が作る段丘上に縄文中期の竪穴式住居跡などがある。北は山地で狩猟に適し、飲み水や日当たりに恵まれていたため、縄文時代初期から人が住みついたらと考えられている

## 安全・安心

◁防犯パトロール 小学生の登下校の見守りのほか、夏休み期間、冬休み期間の夜間パトロールなどに重点を置き、子どもの生活に目を配っている。青色回転灯付自動車(通称、青パト)での見回りなども行っており、地域の安全に努めている



▷児童の登下校の見守りでは子どもたちの「お願いします」という元気な声が響き、大人たちもそれに応えて嬉しそうに声をかけている



△防災訓練 毎年9月1日(防災の日)近くの日曜日に小学校にて開催。市の指導のもと、消防団、交通指導員、学区町民有志が消防、倒壊家屋より救出、避難などの訓練を行っている。地震や水害などから人命を守るための欠かせない訓練である



◁福祉活動 平成15年設立の学区福祉委員会による活動。ひとり暮らしの高齢者の見守りと交流会、介護体験教室の開催、新聞の発行などを行っている

## おへそ? COLUMN やっぱり 今も岡崎のおへそ...

「古くから人が住んでいたこと」、「病院、博物館、総合公園など市の重要な施設が多いこと」、「国道1号や高速道路が走る交通の要衝であること」などの理由から、岡崎の中心地域の活力ある町として住民は誇りに思っています。

また額田地域と合併する以前には岡崎市民病院の北側に岡崎のおへそと呼ばれた場所がありました。地域の中央ではなくなったものの、大型公共施設が集結し、日本の大動脈である東名高速道路のインターチェンジがあることから今も都市拠点として重要な地域であることに変わりありません。



◁岡崎市民病院



▷岡崎中央総合公園